地歴公民（日本史）　早稲田大学　文化構想学部　1/1

＜全体分析＞

試験時間　60 分

解答形式

マーク式 32 問　（語句選択８問　正誤判定 21 問　年代配列３問）　記述式 14 問　計 46 問

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問数は４題で変化はなかったが、小問数は２問増加して 46 問となった。語句選択問題は 13 問から８問に減少したが、正誤判定問題は 16 問から 21 問に増加した。また、年代配列が１問から３問へ増加した。記述式は問題数に変化はなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

例年どおり、大問４題がすべて複数の時代にまたがるテーマ通史であり、各分野からの網羅的な総合問題が続いている。テーマ通史なので必ず大問ごとに近代史が出題されるが、その比率は年度によって異なる。本年度は近現代史からの出題が 14 問から 17 問に増加した。

その他トピックス

〔Ⅰ〕問９は、2025 年度早慶レベル模試大問 4 「電力事業の歴史」で同類の問題を扱った。

〔Ⅳ〕問 11 は、2025 年度冬期講習早慶日本史の第５講 1 で同類の問題を扱った。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	語句選択 正誤判定 記述	古代～近代の琵琶湖に関する歴史	問３の「前将軍」は義量ではなく、正しくは４代将軍の義持を指す。正誤判定問題の問９はX以外の、ＹＺの組み合わせから選択肢を２つまでは絞りこみたい。問 10 はやや細かいが正解したい。問 11 は難。	やや難
Ⅱ	語句選択 正誤判定 年代配列 記述	古代～現代の「軍事」	問３はＹの遷都を「命じた」かどうかの判定がやや難。問４は解答をエとしたが、奉公衆には足利一門も含まれるので誤文なのだろうか。問６は、「ろ」・「は」の時期が近く判断に迷っただろう。問 11 はやや難。	標準
Ⅲ	語句選択 正誤判定 年代配列 記述	中世～現代にみる天皇の政治的実権の推移	問５はアを正文としたが、エを誤文とは判断し難い。問７・問 10 は消去法で正解を導きたい。問 11 は、「い」・「ろ」の時期の判断が難しかった。正誤判定問題の問 12 はX以外の、ＹＺの組み合わせから正解したい。	やや難
Ⅳ	語句選択 正誤判定 年代配列 記述	古代～現代の学校の歴史	問１の解答の蔭位の制は位階が与えられる制度なので、「仕官できる」という表現に戸惑った受験生がいたかもしれない。正誤判定問題の問８はＺ以外の、ＸＹの組み合わせから正解を導きたい。問 11 の「い」の時期は、『くにのあゆみ』が「に」の「新学制」の発足に伴い使われなくなったことで判断したい。	やや易

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

本年度は昨年度に比べるとやや難化した。しかし，全体的には標準的な問題が多く、高得点の争いが必至である。難度を高めているのは、全体の半数近くを占める正誤判定問題である。３つの短文の正誤の組み合わせ問題も増加しているため、曖昧な知識では正解できない。歴史用語を単純暗記するような学習ではなく、教科書の熟読や過去問演習を通じた確かな学力を身につけなければならない。また、政治史･外交史を主体とする学習に加え、早い段階から文化史･社会経済史などを含めた総合的な学習を進めよう。基本・標準的な問題が多数出題されるので、そうした問題を取りこぼすことなく正解していくことが何よりも大切であることを意識してほしい。

© 河合塾　2026 年